

日本大学 桜樹会会報

第 20 号

昭和58年12月

日本大学桜樹会

目 次

女子の体操競技を救う道	浜 田 靖 一	1
対 決	門 脇 春 男	2
10点満点多発に思う	遠 藤 幸 雄	3
思い付記	小田原 行 雄	4
20周年に想う	石 井 征 也	7
逸れ鳥	田 野 哲	8
体操の事故と安全対策	小 松 武 雄	9
新しい外国・プエルトリコ	人 見 省 吾	11
明治・大正・昭和 三代を生きぬいた友との再会	芳 尾 明	14
寮は顕在	原 弘 吉	15
第16回全日本社会人選手権大会競技委員長として	宇 野 正 信	17
懇親会報告		18
体操部のところ		20
会員総会議事録		21
昭和57年度 決算報告		22
昭和57年度 会費納入状況		23
昭和58年度 会費納入状況		25
昭和58年度 男子競技会報告	梶 山 広 司	29
昭和58年度 体操部々員名簿		30
競技会成績		31
会員名簿訂正		34
編集後記		37

女子の体操競技を救う道

——それは体重制限しかない——

浜 田 靖 一

女子の体操競技をみて首をかしげる人は体育の専門家以外にも尠くない。いたいけなかぼそい女の子がアッと驚くような危険な技に挑戦する姿をみてである。

ノーマルな女子の体操競技が行われたのは、大體1964年の東京オリンピックまでで、それ以後はどんどん小型化し、身長1メートル30センチ、体重30キロというような選手がザラになってしまった。むしろ奇型化してしまったともいえるのではないだろうか。これは男子の開発した技を女子がそのまま吸収しはじめたからで、その為には女になる以前の、即ち第二次性徴以前でないと無理なのである。

この子供サーカス化した女子の体操競技の傾向にF・I・Gもたまりかねて、たしかモントリオールのオリンピック以後年齢制限（16才以上）の処置をとった。しかし年齢制限は小型化の歯止めにはならなかったようである。

今年の夏、カナダのエドモントンで行われたユニバシードでは大学生に限るという大会のたてまえから、久しぶりにノーマルな女子競技が行われ何かホッとしたものを感じた。

地球に引力がある以上、スポーツの体重制はおかしくない。ボクシングやレスリングのように沢山でなくてもよい。50キロ以下と50キロ以上のふたつに分けたらどうであろうか。国際競技は50キロ以上とするのである。

体操競技の国際名が「芸術体操」であることはよく知られている。世の中の人々はギリシャ彫刻に出てくるような体の女性の演技をのぞんでいるのである。いみじくもロダンが言ったではないか「もし女性に乳房とお尻がなかったら私は彫刻は作らないであろう」と。私も、オッパイやお尻のないチビッ子の体操など見たいとは思わない。

対 決

部長 門 脇 春 男

年々むずかしくなる入学試験を突破して集る体操部の新人達も、この頃やっと学校の生活や部の練習に慣れてきたところです。

さて、本年はハンガリー・ブタペストで世界体操競技選手権大会があったが、この模様はNHKテレビのゴールデンアワーで4日間にわたって衛星中継で全国に放映された。視聴率は1回当り18～19%あったと聞いた。従って約600万人近くがこの体操を観ていたことになる。男子体操は日本がモスクワ・オリンピック不参加もあり、さらに次のモスクワでの世界選手権でソビエトに破れて2位となったこともあって、世界の体操界から日本はもう駄目だとの目でみられている。しかるにこのテレビで観た限りでは順位こそは3位になったものの、将に白熱した実力紙一重の対決であったと思う。あと一步の工夫があれば明年のロスアンゼルスオリンピック大会では逆転優勝が可能だと信じている。そのためには、若手(本学関係の平田、山脇、渡辺、小野田等)がこのひと冬でどの位基礎的な体力と新技または構成上の工夫がなされるかにかゝってくる。

11月13日(日)全日本選手権の個人総合の優勝争いはすさまじいものがあった(0.15 平田リードでスタート)。それは、平田と山脇のそれである。最初の演技種目が終わった時点で私は、僅差(0.25)で追いかける山脇がもしかしたら逆転するのではないかと、瞬間思った。両人の出来は次

のあん馬でも張りのあるいい技さばきであり、点数も決して悪くはない(0.1差)。しかし、なにか山脇の方に勢いがありなんとなしに技にのびが感じられた。つり輪で同点、4種目の跳馬で逆転したのであるが、平田は少しもあせることなくたんたとしかも堅実に、特に最後の鉄棒では全くすばらしい演技をした(9.80)。山脇がこの種目で9.60だと同点同順位優勝となる。私達本部席におけるものは、夫々点数計算をしておりに汗をにぎる場面にはしばしばぶつかり、まれにみる名勝負となった。しかし、山脇は本当に全力をふりしぼり最後まで演技をし着地も決めた(9.65)。0.05差で山脇の初優勝となった。だれが勝っても不思議のない勝負であった。

明春の入試には、早田監督は高校のトップ級の選手5～6名の勧誘に成功した。この夏頃からこれらの選手の動向をさぐり、常に誠意をもって関係者に接したせいである。他大学の監督、コーチとのそれとないぶつかりがあったと聞いた。「とりたい、来て欲しい」という熱意が相手に勝ったのではないか。

順位	持ち点	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒
1	山脇	56.925	9.60	9.60	9.60	9.80	9.55 9.65
2	平田	57.075	9.70	9.45	9.50	9.65	9.50 9.80
4	渡辺	56.625	9.30	9.40	9.30	9.60	9.25 9.75

10点満点多発に思う

遠藤幸雄

第22回、世界選手権大会は、10月23日（開会式）～30日、ハンガリーのブダペストにて開催された。

男子は中国の初優勝、そして個人総合は16才のBELOZERTCHEV（ソ連）の優勝と、画期的ともいえる結果で終了した。

コマネチはモンテリオール大会（1976）で10点満点の先駆者となったが、当時、多くの者が彼女の技に感心し、批判的な意見はそれほど耳にしなかった。それがモスクワ大会（1980）を経て、第21回世界選手権大会（1981、モスクワ）では男子にも多発するようになると、送られてくる映像に「なぜ」という疑問と、怒りさえ感じたものである。

今大会の10点満点を参考のためチェックしてみると次のような内訳となる。

女子：規定0，自由18（Ib 9，II 6，III 3）

男子：規定2，自由21（Ib 5，II 5，III 11）

正直な話、私もIa 1，Ib 3，II 2と計6つの10点満点を与えた。そのうち上限で削除されたのは2つである。

大きな国際大会で審判を初体験したのは第19回の世界選手権大会（1978）である。その時、採点規則に忠実であればあるほどすべて下限で削除される不安を覚え、不本意ながら他の審判に合わず感覚を学んだ(?)ものである。それは審判として決して歓迎される姿勢とはいえないが、これも国際競技会の複雑さ故のことで、やむを得ないであろう。

それでは、近年の10点満点多発の原因はどこにあるかを考えてみたい。

1. 理想像を描けるか。

言語上の問題はあるが、審判会議における種目ごとの問題点の指摘、あるいは共通理解の徹底が公平を期すうえで重要であるが、いずれも不十分である。また、今大会では、寝坊して後半に間に合わなかった審判もいたが、このような審判にどうして理想像が描けるだろうか。要は審判の質の問題である。

2. 主任の指導力の欠如

実際の業務の場で指導力を発揮すべきは主任であろう。確かな理想像を持つならば簡単に10点満点の表示はできるものではない。従って、主任は相手を納得させ得る論と技を見る眼力を養い、自信を持って欲しいものである。

3. 異常なナショナリズム

「……人物や国家を考慮することなく…」と宣誓しても、審判も多かれ少なかれナショナリズムを持っていることは否定できない。

男子のチーム競技の自由で、実に20ものプロテストが提出され、しかも点数が9.90～9.95に集中した現実はそれを雄弁に物語っている。

以上、自分自身の反省に立って述べてきたが、採点競技の危機を回避するためにも、また選手が努力した分だけ公正に報いられるためにも、良心的な審判を心から望みたいものである。

58. 11. 7

思 い 付 記

小田原 行 雄 (顧問)

「10年一昔」とよく言われます。10年という歳月は昔になったという意味なのです。過日、群馬国体での桜樹会懇親会に出席して、懐かしいOB、OGの方々と久々にお会いすることが出来まして「昔」の感を一層深くした次第です。「今は昔」日本大学体操部と私との出会いは27年前になるのですから。

私の勤務校でありました秋田工業高校は門脇先生の母校であり、先生の高校、大学(早大)時代から、選手として一緒に頑張った仲間でもありました。その門脇先生が日大に勤務され、体育の教師になるという事も驚きでした。なぜなら彼の専門は土木工学だったからです。

初代主将の石井君、主務の稲橋君、それに紅一点の合田さん(現稲橋夫人)の3名でスタートした日大体操部の今日のような隆盛を誰が想像できたでしょうか。何事もそうであるように、初期の難儀は大変なものだったと思います。ボールと場所があればなんとか出来る球技と違い、金のかかる体育館や器具の確保、そして部員の獲得と、将来の夢があればこそ出来た大事業ではなかったでしょうか。初代部長の秋葉安太郎先生、監督の門脇先生のご功績の偉大さを今更ながら感じざるを得ません。国内はもとより、世界の体操界に勇名を馳せるに至った日大体操部に関する事の出来た私は大きな誇りと幸せを感じております。

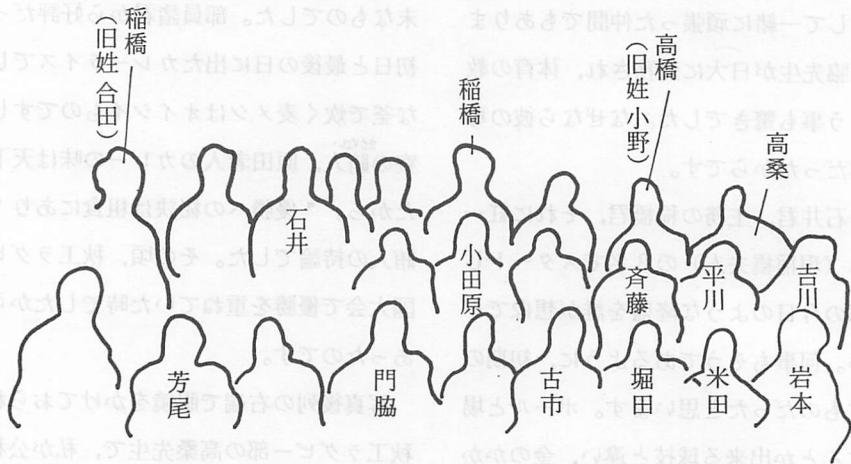
過去を振り返るようになると人間は年をとった

のだと世の人は申します。私も年寄りになったのかもしれませんが……アルバムを開いて見ました。

日大体操部の初合宿の時の写真です。(次頁)若い門脇監督を中心に、9名の遠征合宿でありました。秋田工業高校の寄宿舍に泊り、秋工体操部との合同合宿でしたが、紅一点の合田さんを男性と雑魚寝もさせられず、学校の近くに居られた同窓生宅の一室を借りて宿泊してもらいました。食事は寮生に出す献立ですから、現在と比べたらとてもお粗末なものでした。部員諸君から好評だったのは、初日と最後の日に出了たカレーライスでした。大きな釜で炊く麦メシはオイシイものですし、加えて寮の賄人、原田老人のカレーの味は天下一品でしたから。「優勝への秘訣は粗食にあり」がこの老賄人の持論でした。その頃、秋工ラグビー部が全国大会で優勝を重ねていた時でしたから説得力もあったのです。

写真後列の右端で眼鏡をかけておられる方が、秋工ラグビー部の高桑先生で、私が公私共にお世話になった先生であります。日大とは縁の深い方で、秋工が全国優勝を続けている時の選手を年々日大に進学させ、日大ラグビー部が大学日本一になった時にはそのメンバーの $\frac{2}{3}$ が秋工出身者で占められていたと聞いております。こんな事から同窓生である高桑先生のお世話で合田さんの宿舎もすぐ決着をみたというわけです。

当時、石井主将を中心に本当に張切っていました



た。前年の高校チャンピオン平川君（能代高）を加え、戦力的にも厚みを増し、新興日大体操部の担い手としての自覚に満ち溢れていました。この日大との合同合宿は、秋工体操部にとりましても本当に勉強になりました。大学生と一緒に練習し、試技会も一緒にやってもらうのですから、技の習得も早く意欲的な練習が出来ました。その後、毎年のように東京へ出て日大体操部にお世話になる

ようになったのです。

試技会というと、38年か39年かはっきり記憶していませんが、国体一般男子の北海道と秋田県チームが日大チームと対抗戦をやった事がありました。門脇先生らしい選手強化策でした。北海道、秋田とも日大の選手が主力であったと思います。文理学部の体育館で、TV会社から優勝杯が提供され、国体選手の調整、強化になり監督の私も大

変感謝した企画でありました。

体操好きの仲間達で体操狂いという呼び方をしますが、門脇先生などはその代表的存在と言えるでしょう。「類は友を呼ぶ」の諺どおり、体操キチには体操キチが集るものなのでしょう。日大体操部の隆昌は、指導者も先輩達も、そして現役も、関係する者みんなが体操狂いであったからこそと思うのです。

合宿所が浜田山に移った時、遠藤先生が下宿から合宿所へ移り、部員達と起居を共にした時期がありました。指導者が選手達と寝食を共にするという効果は大なるものがあったと推測されます。辻健一君が初めてのユニバシアード大会の日本代表選手になったのもこの頃でした。部長、監督、コーチと、恵まれたスタッフのもとに日大体操部の基礎が確立され、そのことへの信頼が全国から有望新人が集る要因になったのだと思います。

稲橋君が学連幹事長に就任し、ある日突然秋田へやって来ました。34年だったと思います。インカレを秋田で開催したいとの事でした。県教委、市教委、県体協と案内して回り、快諾を得て秋田でのインカレが実現し、大成功でした。その後日

大から、学連幹事長が相次いで選ばれるようになった事も日大体操部の大きな成長の証拠であり、やがて早田、木村両先生が揃って学生チャンピオンの座を勝ち得て花開くことになるのです……。

思い付くままに、勝手なことばかり、然もまともまらぬ文章になってしまいました。お許し願いたいと思います。

さて、来年8月、59インターハイが秋田で開催されます。桜樹会員である県高体連専門部、米田賢一委員長を先頭に準備に懸命であります。全国から集る高校生達に「思い出に残る大会にしてやりたい」との一念で頑張っています。59インターハイ成功のために桜樹会の皆様のご指導、ご支援を切にお願い申し上げますと共に、高校関係者のみならず多数の方々がこの機会にご来秋くださるよう心からお待ちいたしております。

桜樹会のますますのご発展と会員諸兄弟のご健勝を祈念し、来年8月秋田でお会いできることを楽しみにペンを置くことにいたします。

58. 11. 15

20周年に思う

副会長 石井 征也 (第1回卒)

わが桜樹会も、年々充実の度を加え発展しつつあることは誠に喜ばしいこととあります。昭和38年発足以来20年が経過したことになり、20周年の記念事業を、という企画もありましたが、これは四半世紀、即ち25周年を区切りとして実施したとしても異存のないところだろうと思います。今後じっくり計画を練って実のあるものにされては、と考えます。

ただ、この20年をひとつの契機として、次のことを提案し皆様のご意見をお伺いしたいと思いを取りました。それは会員の再確認ということとであります。

先日、総務の方に確認したところでは、本年度発行の名簿の送付数は405(国外4)通ありました。即ちこれは住所がわかっている連絡のとれる会員数ということになります。ところが11月現在、会費の領収証ナンバーは177番までということで、これは会員の半分にも満たない数であります。しかもこの中には1人で2回送金してきた人も数名含まれているということなので、会費納入者の実数はもっと少ないということになります。幹事会などの折に会費納入状況をチェックしますが、何年間も未納になっている会員は相当数にのぼっていますし、卒業以来1度も納入していないという猛者もかなり居ります。

会則内規第2条には、「2年間会費を滞納し何らの連絡がない場合は除名されることがある」と

明記されております。以前もこのことで議論があり、適用すべしという強硬な意見もありましたが、結局は住所がわかっている者に対しては会報や名簿、諸通知等を送付することになり現在に至っております。しかしこの辺で改めて検討してみる必要があるのではないかと思われれます。それは次の理由によります。

ひとつには小人数の時代ならともかく、このように大世帯になった現在、ある特定の人達だけの負担で会報や名簿を印刷し郵送することはいかにも不公平であるということです。桜樹会はどこからか補助が出て運営されている社会事業団体ではないのですから、会報や名簿の無料配布はありえないのであって、未納者の分は誰かが負担していることとなります。「正直者が馬鹿をみる」ような会の運営は望ましくないと考えます。

またひとつには、桜樹会員であることがかえって迷惑だ、という人も居るのではないかとということです。現に、自分の意志で退会された方が2名ほど居ると聞きます。桜樹会はあくまで任意参加の団体であって、日大体操部に在籍したからといって必ずしも入会しなくてもよいわけです。入会申込書には「本会の趣旨に賛同し、入会することを希望します」と書いてあります。希望して入会した人が、会からの連絡を受けながら何の音沙汰もない、というのは私には解せません。会の一員であることが迷惑なのではないかと疑ってしまう

のです。

以上のふたつの観点から、長期未納の方に対してはとりえず会員であることを望むのか否かを確認する必要があると思います。その際、過年度未納分については、一律何パーセントかの額を納入して頂くことによって未納分を白紙に戻す措置をとったらどうかと思います。

会費のようなものは一度滞ってしまうとなかな

か払えないものです。何年間も未納になっている人は、その未納分が気になってその年度の会費もまた払いそびれてしまうというのが実情と思われまます。20年をひとつの区切りとして、ここでいったん整理してまた新たに出発することも必要ではないでしょうか。以上提案し、桜樹会の磐石の基礎固めになればと思います。

逸 れ 鳥

田 野 哲 (第4回卒)

体操から一切足を洗ってから、早いもので6年が経過する。人生皮肉なもので、退いてから、地元群馬へ全日本2回と国体が訪れ、体操から去った私としては大変気まずい思いもしたし会員の皆様には何かと迷惑をかけてしまった。

過日の群馬国体時の桜樹会懇親会の席では、多くの会員の方々が(やっている者の強みとでも言うのだろうか)実に楽しそうに、屈託のない面持で盃を酌み交していた。そんな中で、冷めた私は、表面はみんなの話に同調させつつも心の奥では、学生時代から今日までの出来ごとに思いを回らせていた。

小、中、高と、なんら努力することもなく、劣等感と無力感に責め苛まれていた自分、そんな自分の気持を雲散霧消してくれた日大体操部との出会い、私の人生観は一変した。四年は矢のごとく過ぎ、すばらしい師、すばらしい友に別れを告げ、自信と勇気をもって田舎の教壇へ。そして体操一直線。軌道修正なしに走り続け、33~4才までは

順風に帆をあげる思いであった。ところが、県大会に常勝しまさに全国へ飛翔しようという期に及んで、母の交通事故死、父の病氣。その頃を境に、体操に関するすべての事象体験が無意味に思え、他人と協調しようという心も失せ、わけのわからぬ疑念を抑え切れず訂正不可能な人間不信に陥った。もはや競技性をもったスポーツに価値観を見い出せなくなった逸れ鳥は潔く別世界へ退くほかなかった。以来、家庭を中心に考え、出来るだけ多くの活字に目を通し、静かに一般教養の修得に励んでいるつもり。

愚痴がましい気もするが、最後に、連日体操の指導にあたっている後輩諸君に、私のささやかな体験から、指導者としての心構えの一端を独断と偏見で述べさせてもらって原稿を閉じることにしたい。

まず基本的には、

○勝った、負けた、得点がどうだったなどということは、考え方によっては全くくだらない

こと。まして器械体操はそういう性質のものではない。動きの質的追求のみで善しとすべし。

○生徒個人の幸福を考え、部のため、学校のため、県のためといった本来存否の怪しい幻影に惑わされないこと。

それでも競技に未練のある方は、

○定年までのつもりで決して力まず、淡々と行い、どんなに熱中しても心の片隅に「たかが体操」の気持を忘れないこと。

○生徒の一切の責任を教師がとれるはずはないのだから、その生徒にとってマイナスになるような無理な指導方法や接し方を決してしないこと。

○体操の低年齢化に対応すべく、校内の努力の

みに留まらず、早急に地域での組織作りに努めること。

○自分のやり方のみで進もうとすると、必ず嫌らしいジェラシーなるものが出てくるので、適度に右顧左眈し周囲と自己とのバランスを考えるべし。

○職場の人間や体操関係者とは決してトラブルを犯さないこと。いくら反対されても面従し、心の中では、反対した人を利用する日を考え、それをじっくり待つことの方が得策。

○体操（その組織）から離れるということは、携わっている時よりも確実に厳しいものであるから、余程のことがない限り食み出すことのなきよう。以上

体操の事故と安全対策

小松武雄（第5回卒）

一般にスポーツ人口はピラミッド型をしているといわれている。底辺を成す初心者から一定の技術を身につけて各種の競技に出場する中堅者、そしてインカレ・社会人・全日本選手権大会・国際競技会等に出場するトップクラスまでが下から順に積み重なっている構図である。体操競技も御多分にもれずこれと同様の構図をしている。

体操競技は課題の確実な実施と熟練性、とりわけ自由演技では、完全実施、高度な難度と運動の構成、独創性、熟練性、巧緻性等が重要なポイントとなっていることは承知の通りである。競技会で高得点をあげ入賞するためには、他人がやらな

いまたはできない難かしい技を考案し実施しなければならない。

久し振りに体操競技を観る機会があった。当然の事とはいえ、年々技術が向上している競技は昔と比較できない高度な難度が要求されていた。全日本選手権の種目別に出場する位の選手の技は、観衆も安心して観る事ができる。勿論、中学生や高校生の大会でもそれなりの技術を完全に身につけた者の演技はすばらしいものがあるし、何よりも安心して観ることができる。

ところが競技会に出場する者の中には、昨日、今日覚えたばかりのような技を取り入れて演技し

ている姿を時々見かける。ハッとして眼をおおいたくなる経験をした人は多いであろう。誰でも練習をせずに技術を修得できる者はいない。しかし競技会に出場する者は完璧に身につけた技を組み合わせることで実施しなければコンスタントに実績をあげることは難しい。

捻挫、挫傷、打撲、脱臼、裂傷、骨折、腱断裂など、体操競技で起きる事故は多い。下肢の捻挫は鉄棒や床でのひねりを加えた回転競技の着陸に失敗した時に起こしやすい。手首や指の捻挫は握りを離して再び持つ技や空間にとび上った体勢から手で受ける技の失敗によるものが多い。このように事故を防止するには事故がどのような時に発生しやすいのかを知り、その起因となるものを防止することが必要である。

時には鉄棒や吊輪からの着陸に失敗して、頸の骨や背髄を損傷したり半身不随や麻痺状態の廃疾や死亡事故が発生することもある。こうなると事故に対する損害賠償請求の訴訟や刑事訴訟等の問題でややこしくなる。例えば、昭和43年7月、日大山形高校1年の生徒が吊輪の練習中2回転宙返りを試みて失敗、床面のセーフティーマット上に頭から落下し頸の骨を脱臼（神経切断）の為首から下が麻痺状態となった。また、昭和47年8月、尾道高校3年の生徒が鉄棒の練習中、後方屈身2回宙返り下りを試みて失敗、頸髄損傷、第4頸椎前方脱臼の傷害を負った。

2つの事故とも被害者とその両親から指導者や管理者に対して損害賠償請求の訴訟がなされているが、前者はそれが認められ、後者は認められていない。

体操競技における廃疾事故では、転落転倒による歯牙の欠損、上肢の障害、背髄障害、視力障害の順が多い。死亡事故や重障害事故は、ほとんど

転落による背髄障害で、体操競技における事故起因の特徴ともいえる。従って事故防止対策としては、転落事故をいかになくすかにある。そのためには、①安全面に対する指導注意。②能力に応じた技の習熟。③段階的指導と研究。④コンディションに応じた練習内容の構成。⑤器械器具の点検整備と正しい練習態度。⑥器械器具の正しい使い方。等を列挙することができよう。練習時に使用されるウレタンマットの使い方には慣れてきたものの、初心者はウレタンマットの安全性を過信しすぎていないだろうか。ウレタンマットは転落などの衝撃をやわらげる特性を持っているが、マットに当たる面積が小さい場合は、深く沈み込んでその部分を固定する欠点もある。

昔は砂場に鉄棒を設置して練習した時代があった。時には多勢の部員がマットの端を持って補助にあたる事もあった。その後、地面を深く掘って大鋸屑を入れ、落下しても怪我をしないような工夫もなされた。大鋸屑に変わってスポンジやウレタンマットを小さく切って落下の衝撃をやわらげることも考案された。選手はそこで完全に技をマスターするまで練習を行ない、新しい技を完成させることができる。同じ練習は跳馬や吊輪でも実施できる。また、完成しつつある技を完全なものにするため、安全ベルトを施して練習させ、万一の場合は怪我等しない配慮もみられるようになった。

体操部に所属していたOB・OGで、指導的立場にいる人も多い事と思う。自信を持って指導する事は大切であるが、今一度安全指導管理について見直してみてもどうだろうか。

新しい外国・プエルトリコ

人見省吾（第10回卒）

桜樹会の皆さま如何お過ごしでしょうか。スペインで11年以上の勤務を終え、56年の春やっ和日本に帰ったのもつかの間、昨年5月からプエルトリコのコーチとなって1年半になります。

岡山の片田舎からただ体操をやりたいがために上京し日大体操部に入った私ですが、その後何処でどう道間違えたものか、卒業以来外国回りばかりで今日になりました。

プエルトリコ、初めて耳にする人も多いことでしょう。カリブ海の何百とある小島のひとつで、キューバ島の隣りにあるハイチとドミニカ島の右側に小さく浮かぶ島、それが今回私の住んでいるプエルトリコです。

この国に着いた当時、ムーッとする暑さで1週間ほど頭がボーッとしていたことが記憶に残っています。年中短パンに半袖シャツの生活ですのでとても開放的です。1493年、コロンブスの2回目の航海で発見されたとか。以来1898年までスペインの植民地であったのですが、アメリカとの戦いに破れて以後アメリカの支配下にあります。面積約9,000 m^2 （日本の中位の県ひとつ分）、人口350万人、人種構成は白人30%、黒人15%、あと昔からのインディアンと白人、黒人などの混血。熱帯性気候で平均気温20°～30°C。

私の住んでいる所は首都サンフォアン。海岸に近い所なので来た当時は毎週海に出かけては、泳いだり、釣りをしたり、また水中遊泳を楽しんだ

り。この水中遊泳が実にすばらしいのです。サンゴ礁に囲まれ、赤、青、黄、色とりどりの魚が群れをなして泳いでいます。日本では水族館でしか見られないような魚が実際に見られる楽しさに、時のたつのも忘れるほど夢中になったものです。くだものも、日本ではバナナやパイナップルは高価なもので、学生の頃は、タタキ売りでくずバナナを買ったり、パチンコの景品として手に入れて喜んで食べたものでしたが、こちらでは1\$出して買おうものなら、山ほどあってとても食べ切れるものではありません。その他、マンゴー、ココ、コーヒー、砂糖などが名産です。

さて、スポーツの話に入ります。この国の大衆的スポーツは、野球、バスケット、そしてボクシングです。今年から日本の野球界でもプエルトリコ人が活躍しているはずです。

余談ですが、アメリカの支配下にあるので市民権もアメリカ人になるのです。しかし独立した形にもなっているので、例えばオリンピックなどの国際試合には独立国として参加できるのです。しかしその場合、パスポートはアメリカ市民と同じなのです。ややこしい話ですが、政治的問題ですのでやめにします。日本でプレーヤーが、アメリカ人と呼ばれるのかプエルトリコ人と呼ばれるのか興味あるところです。

ところで体操ですが、この国では10年前に体協が発足したばかりの新しいスポーツです。そして

ヨーロッパなどと同じようにクラブで行われています。外国でクラブが盛んな理由は、学校に体育の時間がないか、あるいはあっても内容が貧弱だったりするため、教育に熱心な親がクラブに入会させるからなのです。この国ではまだ貧富の差がかなりあって、生活のため国から援助を受けている人も多く、クラブに入れる子供は限られています。したがってスポーツが出来る人はまだまだ少ないのです。

ある時、こんなことがありました。

たまたま海に泳ぎに行った時のことです。浜辺で14～5才の少年が遊んでいました。見ますと、ロンダード～逆転～スワン2回ひねり、ロンダード～逆転2回宙返りをやっているのです。砂浜で、裸足で、海水パンツ一枚で、この少年はみごとにやってのけたのです。まっ黒に日焼けしたインディアン系の少年でした。

私は思わず問いました。「どこで覚えたんだ」子供は笑いながら答えてくれました。「毎週日曜日にあるオジサンが教えてくれるんだ」と。

あれこれ聞いてみますと、「学校は金がかかるから行けない……。その時間こうして浜辺でアクロバティックして見ている人達から金をもらっている。それに疲れると、洗車してやって、少しの金をもらっている……」というようなことがわかりました。

私は思わず考えてしまいました。2回ひねりやダブル宙を教えるのに何年かかるでしょう。私は、

「君、体操って知っているか？ 私は日本からはるばるその体操の指導にやって来たんだ。体操やってみないか？ 私の練習場に来てみないか？」と、夢中で語りかけていました。

少年は笑いながら、

「その体操をやるといくらになるんだ」と、まるでサーカスにでも入るように言うのです。「ジンゴ君（その少年の名前）、このスポーツはアマチュアで一銭の金にもならないんだよ」と言うとガッカリしたように「それでは話にならない」と答えるのです。

彼と話をしてもそれ以上の進展はないので、彼を教えているというオジサンに会うことにしました。

オジサンは白髪の小柄な紳士でした。私が体操コーチでこの国に来ていることを話して、「実はジンゴ少年のことで……」と切り出すと、とても好意的にいろいろなことを語ってくれました。

「私は若い頃サーカスに居たことがある。水泳の飛び込みもやっていた。体操もとても好きで今でもやっているよ」。

70才になるというこの老人は、毎週日曜日になると海岸に出て、自分で作った小さな平行棒と、直径1mにも満たないミニトランポリンを置き、集って来た子供達と一緒に遊んでいるのです。この年令で、倒立したり、トランポリンで前転宙返りをしたり、これには私もびっくりしてしまいました。

「ジンゴ少年に体操をやらせてみたいのですが」と問うと、「難しいよ。彼は不幸にも両親の離婚でオバにあずけられ、生活も楽じゃない。彼もそれを十分わかまえていて、洗車して稼いだり、毎週この浜辺にやって来る。私は、彼に会った時は生活のタシにというつもりでいつも5\$づつあげらるんだよ」。

少し小説じみてきましたが、もうしばらくこの

話を続けたいと思います……………。

少年は、とても体操なんてやれる状態ではなく、毎日の生活に一生懸命だったのです。

それから数ヶ月が過ぎ、ある日突然ジongo少年が体育館にあらわれたのです。私は喜んで迎えました。彼は、準備運動もそこそこに、例によって短パン一枚の裸足でマット運動に入りました。前方転回など簡単にこなし、例のダブルひねりも何なくこなします。私の生徒達は、何者だという顔をしてただ口をあぐり。彼は、ダブル宙返りをいとも簡単に、あざやかにきめて笑っています。

私の生徒達もダブル宙はやっていますが、毎日補助マットに私の補助つきで、1ヶ月、2ヶ月と繰り返している段階なのです。

彼はすぐ生徒達と友達になり、今度は鉄棒に移りました。度肝を抜かれていた生徒達もやっと我に返り、鉄棒をやったことのないジongo少年に得意そうに教えていました。30分ほどやっていたでしょうか、私の所に来て両手をひろげて笑っています。手の皮がむけて血がにじんでいます。それでも気に入ったのか、「また来るよ」と帰って行きました。

それから彼は時々来るようになりました。マット以外の運動もやっていましたが、来るたびに手の皮をむいて帰って行きました。週に一度位、2ヶ月ばかり来ていたように思います。しかしいつかプツリ来なくなりました。

気になっていて、ある日浜辺の老人の所に行ってみました。老人は、

「あの子どもやっと人並みの生活ができるようになって、学校に行っている。今はそっとしてお

てやってくれ」と頼むのです。15才の少年が、小学校3年か4年の教育を受けているのです。私はジongo少年のことを忘れることにしました。

それから数ヶ月して、彼がひょっこり顔を見せたのです。「今、学校に行ってるんだ。友達もできたし結構楽しいよ。先日テストがあって、〇〇科目は『良』で△△科目は『可』だった」などととても嬉しそうな顔をして話してくれるのです。私も、体操のことは口に出さず、しっかり勉強して立派な人になるよう励ましてやりました。

これでジongo少年の話はおしまいです。彼が私のクラブに来てくれればかなりレベルアップするでしょう。しかし、今の彼には体操よりもっと大事な教育があります。ジongo少年のことはあきらめたのです。

彼のような例は必ずしも特別なことではありません。こちらでは、貧富の差があって誰もがスポーツを楽しむというわけにはいかないのです。日本のように学校単位でクラブがあれば、ジongo少年のような者でも、特別な金を払うこともなく活躍の場が与えられると思います。そうすれば、もっと多くの人達にもスポーツというものを理解してもらえるでしょう。

長々と書きましたが、貧乏でも体操ができるような、そんな国にしていければという大きな夢とジongo少年のような素質のある人材が石ころのようになっていることを期待して、いましばらくはこの国で指導してみたいと思います。

……………

朝めがさめると、文鳥（こちらでは野鳥）が鳴き、オウムやインコ類がけたたましくわめき、夜になると、この国にしか棲息しないというカエル

の音楽会が始ります。

こう書くと、まるでジャングルの中にも住んでいるように想像されるかもしれませんが、決して、そんな所ではないのです。もちろん、東京や大阪とは比ぶべくもありませんが、かなりビルのたち並ぶ都会の中なのです。

この国はこれから観光シーズンに入ります。桜

樹会の皆さん、変った所を旅行してみたいと思われ方は、カリブ海のハワイと呼ばれるこの島へ遊びに来られてはどうですか。

では、はるか地球の裏側から、日大体操部の活躍と桜樹会の発展を折りつつペンを置きます。

1983. 11

明治・大正・昭和 三代を生きぬいた友との再会

芳 尾 明 (第2回卒)

新緑の5月、総務の菊地君から、田舎から親父が出てくるので親しい人達で一杯やりたいがどうだろうか、とのお誘いをうけた。

彼の父上には、彼の郷里である福島へスキーに行った折大変世話になった。大学出たての頃で、同期の堀田君や平川君、それに後輩の小栗君なども一緒だった。夜、珍しいピョンコ(うさぎ)の肉を、骨付きのまま炭火であぶり、秘蔵の濁り酒を酌みかわした思い出は忘れられない。もう20年近いむかしの話である。

5月15日、堀田君、平川君と日暮里で待ち合せて彼の住いを訪ねた。駅から、彼の送ってくれた地図を頼りに歩いて行くと、目覚えのある懐しい顔が道端に立っていた。額は少し広くなったものの、20年の歳月を感じさせない若々しい顔であった。実に久しぶりの再会に胸を熱くした……。

菊地君の家は、千葉県の白井町という所にある。千葉ニュータウンの一角ということで、ニューライフにふさわしいゆったりとした自然の美しい街である。区画整理も行き届いていて、大きな公園

もすばらしい。

当日彼の家では、先輩の稲橋さん、石井さん、それに彼の同輩や後輩、また田舎の高校で同期だった友人たちも交えてにぎやかな集いになった。広い庭で、ブロックのかまどに大きな鉄板をのせてぶ厚いステーキを焼く。臭いを嗅ぎつけて隣近所のだんな方がやってくる。そしてたちまち一つの輪になる。福島の家を訪ねた時もそうだったがそこには、年令や職業など全く関係なく、初対面の人も数年来の知己のように、なんのこだわりもなく盃を酌みかわせる雰囲気があった。

74才になるという彼の父上は、どうして、どうして、われわれより酒が強いくらいだし、今も仕事をもってバリバリやっている現役なのである。大いに語り、明治男の気骨にふれ、私も多くを学ぶところがあった。

人生学ぶ過程に卒業はない 大好きなことばである。

明治生れの大先輩に対して友だち呼ばわりは失礼千万かもしれないが、菊地君の父上にはそれを

許してくれる雰囲気がある。私にも多くの友人はいるが、このようなすばらしい友は他にはいない。夜も更けるころ、またの再会を約して彼の家を辞

したのである。

— 友とは喜びを倍にし、

悲しみを半分にするものでありたい —

寮 は 顕 在

原 弘 吉 (第11回卒)

先日文理学部へ寄った折に、ふと昔を思い出し寮の跡を尋ねて見た。想像はできたが15年の歳月は回りの様相を一変させており、唯一文理の古い塀だけが昔の面影を残していた。

しばらく歩いていると新しい家並の間から古めかしい一軒の家を見つけ、びっくりすると同時にとても懐かしい感情がこみあげてきた。今にもガラガラと崩れ落ちそうな瓦、はずれかけているアミ戸、開くとギーギー音のしそうな玄関の扉、頭がつかえそうな狭いトイレの小さな窓、壊れかけた塀……門には『大川』の表札が有るがまさしく我々が生活した寮(体操部第二合宿所)である。

当時の部員数約200名、合同練習の時には体育館に二重三重の輪ができ、器具につかまるのに待つこと10分……、今ではとても想像できない。合宿所も30名と飽和状態で第二合宿所の必要性が生まれた。

昭和43年2月、我々(宇野、山田、原)は門脇監督に呼ばれ「寮をつくりたいのだが面倒を見てくれないか」と相談をうけた。当時2年の我々にとってはあまりにも突然のことで戸惑いを感じたが、先輩のいる合宿所を出られるという魅力に負け(?)たかどうかは忘れたが引受けることになった。

マーじゃん、パチンコ、ボーリング、玉突きど

れを取っても超一流、一杯入ると出る歌がなぜか「唐獅子牡丹」大阪の「高倉健」さんこと『山田隆士(現在山田商店自営)』。

郷土愛は誰にも負けず、山形弁をこよなく愛した「O脚のスプリンター」こと『宇野正信(現在日大山形高校)』。

「先輩の「パー」は「チョキ」にも勝てる」(梶山曰く)と手の大きさでは一目おかれる道産子の『原弘吉(現在日大鶴ヶ丘高校)』。それにしても前途多難であった。

会計担当の宇野が監督より仕度金として8万8千円預かり、まず浅草橋へ出掛け、食器の買い出しから始まった。洗濯機は早田先生より注文していただいたが、なぜか全自動が届き慌てて交換。狭い食堂に新しいテーブルと椅子が入り新入生を迎える準備は整った。

期待と不安で迎えた寮の一期生は……。ニキビ面で背が高く今にも折れそうな「博多?のモヤシ」こと『北見(現在不明)』。何事にも粘りが身上の「スマイリー・サイトウ」こと『斉藤敬一(現在相模原市立田名中学校)』。親の後を継ぐため途中退学した山形のフォーク・シンガー『佐藤吾一(現在ソバ屋?自営)』、誰がつけたか「ボッチ」ホウキを持てば様になる「熊本の座頭市」こと

『徳永富夫（現在熊本商科大附属高校）』。一杯入る毎になぜか目が寄る“長野の橋幸夫”こと『塚田和茂（現在千葉日大一高）』。いくら気取っても秋田弁が邪魔をする“フェミニスト”の『椎名昇（沖縄国際大学）』。脚の長さで皆より一歩遅れて入寮した“短足胴長〇脚”の『中村栄喜（現在能代高校）』。

とにかく全国各地よりバラエティーにとんだ人材が集まり、まるで『全国うまいもの店』。

こうした出逢いからは様々なエピソードも生まれた。

☆枯草に落した一本のマッチは一瞬回りを火の海に……「ヤカンを持って消しに行くバカがいるか」となぜか消火法で叱られたあの事件では早田先生に大変ご迷惑をおかけした。

☆「我々はタバコはスイマセン」それでも絶えなかった吸殻ポイ捨て事件。

☆「娘がおりますので卑猥な歌はやめて下さい」これまた隣（雨宮宅）からの苦情電話。

☆先輩（宇野）の時計が進んでいたのに「門限一分遅れ」とアメラク・グランドでの泥中の正座。

☆飲めば便器を枕に寝ていたT君。

☆初めて乗った50cc ……ちょっとした遠出で無免許、飲酒運転の前科一犯……しょんぼり戻ったH先輩。

☆隣のトタン屋根を吐物で染めた幾多のドンブリ酒事件。

☆絶えなかった真夜中の脱走事件。

なぜか寮の人間関係は“アルコール”という一本の太い糸で結ばれていた様である。

「先輩お話ししましょう」これが「一杯やりましょう」の合言葉、その度に我々三人は互いのサイフを

覗き込み、小銭を出し合って酒屋へ走る。でもビールはめったに飲めず、いつもトリスのキングサイズ、お陰で宇野と私は胃腸カタルで苦しんだ。

「合宿所に追いつき追い越せ」を合言葉にスタートした寮も、新人戦では合宿所を上廻る好成績、四年次には寮から育った連中が部を引張り、キャプテンの椎名はインカレ個人優勝と輝かしい成績を収めてくれた。このことは我々三人にとって大きな喜びであった。

今振り返って見ると、これまでに寮がまとまりをみせることができたのは、先生方が機会ある毎に立ち寄っては激励してくれたことと、一般部員の飯島（現在八千代市立大和田小学校）、千野（現在日本電話衛生協会）両先輩が事ある毎に寮を訪れ「オ～イ、マージャンやろう」と卓を囲みながら熱心にアドバイスしてくれたお陰に他ならない。

何分眺めていたであろうか……懐かしさのあまり時間の過ぎるのも忘れていた。寮で一緒に苦楽を共にした仲間に伝えたい「寮は今でも顕在、是非一度は尋ねてほしい。そしてまた杯を交そう」。

第16回 全日本社会人選手権大会 競技委員長として

宇野正信（第11回卒）

山形県は、現在昭和67年度べにはな国体の総合優勝を目指し、県体育協会の強化方針に合わせ各競技団体（連盟）が、ジュニア、中学、高校、一般と普及、強化を始めたところであります。

県体操協会もその強化方針に従って強化を進めているところでありますが、その強化の一環として、全日本社会人選手権大会を、社会人連盟（理事長－稲橋桜樹会長）のご協力により開催することができました。県の関係者一同深く感謝している次第です。

かつて山形県は、女子体操競技を中心に体操王国と言われた県であり、本学の木村先生はじめ数々の有名選手を出したのでありますが、その後は女子競技も不振が続き、現在は峯田孝幸選手（第23回卒、日大山形高出、大和銀行）ただひとり活躍というさみしい状態です。

このように、男女とも不振が続いておりますので協会あげて努力しているところですが、東北大会総合優勝が精一杯で全国上位入賞は大変難しくなっております。今回の社会人大会では、ジュニア、中学、高校の選手に見学させ、また指導をしていただきましたが、その後は欠席者もなく一生懸命に頑張っております。10月に行われた国体では、少年女子器械7位、成年女子器械8位、少年女子新体操9位、少年男子器械15位という成績でした。これも社会大会が刺激になった結果であると思います。

67年国体の開催地、山形市を中心にジュニアの普及、強化ということで親子体操教室を開設し、将来のオリンピック選手が育つことを夢みて、高校の練習の合間をみては指導に情熱を燃やしていますが、指導していて、社会人大会のような大きな大会が開催されると県民全体の団結力もより深くなるということを強く感じました。

今大会では競技委員長という大役を仰せつかりどうなることかと思っておりましたが、大会当日はあまり緊張することもなく無事進行することができました。これも、遠藤先生、稲橋会長、石井副会長、そして早田、木村両先生や諸先輩方の多大なるご協力のおかげと思っております。大変ありがとうございました。この経験を生かして、べにはな国体目指し大いに頑張りたいと思います。

懇親会報告

世界選手権最終予選会

とき 7月23日

ところ 岡山市「一の瀬」

〔出席者〕

門脇春男、遠藤幸雄、稲橋恒行、早田卓次
木村多喜、常井晴道、津村二郎、渡部宣裕
近藤 明、高橋正典、三木和一郎、松尾道子
山崎雅昭、梶山広司、前山真一郎、岡崎恭児
千田修平、湯原清介、松本竣一、宮越達也
浜田貞雄（日体大卒） 以上21名

昭和58年全国高校総体

小栗 郁 郎（第5回卒）

8月9日より11日まで行われました名古屋のインターハイの折にOB会が催されました。会場の中国大飯店「金華殿」には、31名の方々が参集してくれました。

この大会では、早田、木村両先生が男・女の審判長として重責を果されましたし、また、総体15回以上参加の監督表彰では、長野中央高の船木先生が全国8名の表彰者に選ばれ、晴れの表彰を受けました。このように、今年のインターハイはわれわれ日大OBにとって誇り高い大会となりました。

59年の開催地秋田からは、米田先生が大会総務として来ておられましたが、秋田での大会にも、

ひとりでも多くのOBが参集できればと思います。特に、女子OBが今回木村先生ただひとりということを考えますと、来年はぜひ女子OBの参加を願う次第です。

二次会もあり、夜のふけるのも忘れ思い出話に花が咲いたことを付記して報告といたします。

〔出席者〕

米田賢一、藤谷弘一、佐藤 誠、早田卓次
木村多喜、金子洋平、三宅美雄、小栗郁郎
前田千賀志、苅込和男、近藤盛一、大和孝三
橋口泰武、山内 悟、伊藤 勇、船木政明
吉田義則、堀田敏明、宇野正信、椎名 昇
山口次男、庄司忠男、中村栄喜、青木文次
木村邦博、田中章二、林富久寿、谷田部光則
椎名 厚、梶山広司、杉沼 誠

以上31名

昭和58年会員総会および懇親会

日時 昭 58. 8. 21

場所 原宿「南国酒家」

〔出席者〕

遠藤幸雄、稲橋恒行、石井征也、平川文雄
堀田淳二、芳尾 明、吉川 輝、早乙女貞夫
上野 剛、菊地君男、早田卓次、坂田安世
小松武雄、山中勝男、鶴見興人、岩沢 稔
海谷美代子、伊藤 勇、赤松正致、林 昌幸
近藤 明、千野良一、高橋正典、原 弘吉

山本好隆, 相原和明, 外山宜男, 山崎雅昭
前山真一郎, 久保田一行, 朝倉和幸, 金居俊郎
松本竣一, 岩井高志, 山脇恭二, 峯田孝幸
森元潤一 以上37名

早稲田大学記念体育館で行われたインカレの最終日に合わせて、総会および懇親会が開催された。試合終了が遅れたこともあって、総会には間に合わなかった人もあったが、懇親会では上記の人達が顔を揃え大いに旧交を温めた。特に、尼崎在住の坂田(旧姓寺島)安世さんが卒業以来初めて顔を見せ、参加者から大モテの存在であった。

第16回社会人選手権大会

とき 9月10日
ところ 山形市「一寸亭」^{ちよつと}

(出席者)

門脇春男, 遠藤幸雄, 稲橋恒行, 石井征也
菊地君男, 木村多喜, 早田卓次, 渡部宣裕
宇野正信, 田中清子, 青木文次, 田中章二
梶山広司, 前山真一郎, 佐藤之俊, 金居俊郎
松本竣一, 慶田盛定, 垂石守, 茂木こずえ
中村秀也, 平田倫敏, 山脇恭二, 国井信行
安富寿, 早瀬幸博, 峯田孝幸, 渡辺英明
市原邦彦, 以上29名
他に日大山形高OB 数名

会場のそば屋「一寸亭」は佐藤之俊君(第18回卒)の実家であり、そば処山形でも有数の老舗である。ここのご主人、つまり佐藤君の父上は、山形市の体操協会会長を務めておられ、今回の大会開催に当って何かとご尽力頂いた方である。また、

彼の兄さんも一時日大体操部に籍をおき体操の道を志したのだが、中途にして家業を継ぐために帰郷し、現在若だんなに納っているという因縁浅からぬ方である。

時節柄、山形名物のいも煮を肴にうまい地酒、去り難い宴ではあったが、半数以上が翌日試合を控えた選手であることを考え、味自慢のそばをご馳走になり散会した。

第38回あかぎ国体

茂木こずえ(第20回卒)

大会初日、段違い平行棒の審判を務めながら終始観覧席に目をやる。若輩の私が、先輩たちの顔をすべて見つけ出すことは不可能なことだとわかっていても、つい目がいってしまう。懇親会の会場へは30人の予定と言っているが、果して何人来てくれるのだろう、初めての大役に気もそぞろなのである。

10月17日の当夜、前橋市のウェディングプラザには47名もの方々が集ってくれた。とんだ見間違いだった。門脇部長、早田監督、木村コーチ、それに秋田からは顧問の小田原先生もお見えになった。また、稲橋会長、石井副会長にも駆けつけて頂けた。久しぶりにお会いした方たちの輪がそここちにできて、楽しいひと時が過ぎた。

突然、懇親会場が結婚式場に変化した……。実は、国体終了後、めでたくゴールインされる14回卒の田中章二先生と本年卒業したての湯川誠子さんの結婚式のリハーサルが行われたのである。小田原先生の司会でいともなごやかに、そして少し緊張して進行したりリハーサルはとてもほろろましい光景であった。今回の懇親会にも4回卒の高田

信興さんご夫妻が出席されたが、名簿を繰ってみると、約25組ぐらいの桜樹会員同志のカップルが数えられる。親子そろって桜樹会員という日も間近いのではないだろうか。

ところで、今回私が最も感激したことは、12回卒の田中清子先生が和歌山県の選手として出場されたことであった。もちろん男女合わせて最年長の選手である。にもかかわらず、切れ味鋭い山下とび、パーを使いこなしたとび出し下り、全日本でも十分通用する平均台のロンダードスワン宙返りなど、各種目に圧倒されるような演技であり、それは、仕事、家事、育児で七転八倒している私に改めて意欲を燃え立たせてくれる試合ぶりであった。

このようなすばらしい沢山の先輩、そして後輩が集った「あかぎ国体」の懇親会、とても有意義

な、素敵な一夜でした。

〔出席者〕

門脇春男、小田原行雄、稲橋恒行、石井征也
藤谷弘一、早田卓次、菊地君男、高田信興
田野 哲、木村多喜、小栗郁郎、金子洋平
二岡真美子、高田佳子、大和孝三、近藤盛一
橋口泰武、林 恵子、常木節子、船木政明
伊藤寛美、常井晴道、渡部宣裕、堀田敏明
阿部 稔、宇野正信、田中清子、椎名 昇
山口次男、中村栄喜、田中章二、木村邦博
林 富久寿、北村弘文、西巻洋一、境 保則
畠山繁博、慶田盛 定、後閑文昌、杉沼 誠
茂木こずえ、国井信行、安富 寿、吉田清一
吉盛武光、湯川誠子、清水克彦

以上47名

” 体 操 部 の こ こ ろ ”

「体操部のうた」として、桜樹会の懇親会では必ず歌われるようになったこのうたは、副会長の堀田さんの高校時代の体操部の後輩、フォークシンガーの小室等さんが作詩、作曲したものです。最近、その小室さんから堀田さん宛に一巻のテープが届きました。彼自身がギターを弾き、歌っているものです。

このうたは、昭和47年2月発刊の会報で歌詞と譜面を紹介したことがあります。10年も以前のことであり、多少違っているところもありましたので再度掲載することにしました。それから、テープはギター伴奏と口笛だけのカラオケも入っていますので、希望される方にはダビングして送ることにしました。ご希望の方はテープ代および送料として1,000円を菊地宛お送り下さい。（郵便振替にて可）

体操部のこころ

作詩・作曲 小室 等

E	F#m	B7	E
いつの日にか	学舎をはなれ		
E	F#m	B7	B7 E
いつの間にか	見知らぬ場所で		一人生きる
E	F#m	B7	E
そんなある日	ふと思い出す		
E	F#m	B7	E
なつかしい	タンマのにおい		
E	F#m	B7	E
なつかしい	汗で汚れたマット		
E	F#m	B7	E
そこで育まれた	大切ななにかが		
E	F#m	B7	E
今も心に	残っている		
E	F#m	B7	E
いつまでも	忘れない		
E	F#m	B7	E
体操部の	こころ		

(3回くり返す)

会 員 総 会 議 事 録

58. 8. 21 南 国 酒 家

出席者 37名(別掲)
委任状 117名分
議長 吉川 輝
書記 海谷美代子

58. 8. 16 ~ 21
インカレ
10. 23 ~
世界選手権(ブダペスト)
11. 3 関東新人戦
11. 10 ~ 13
全日本選手権

1. 報告事項

(1) 事業および行事報告(菊地総務)

57. 6. 26 部長、監督交替に伴うパーティー(出席者74名)

57. 10 会報第19号発行

58. 7 会員名簿発行

各競技会における懇親会(懇親会報告参照)

(2) 体操部報告

(早田監督が試合で遅れたため稲橋会長から報告……成績は別掲)

58. 5. 3 ユニバ予選会

小野田, 峯田代表

5. 4 新入生歓迎会(菊谷会館)

5. 27 ~ 28

世界選手権第二次予選会

6. 10 ~ 12

東日本インカレ

7. 23 ~ 24

世界選手権最終予選会

渡辺, 小野田, 平田代表

(3) 決算報告(菊地総務)別掲

(4) 会計監査報告(石井副会長)

○会計監査の小栗, 前山に代って, 監査の結果相違ない旨報告。

2. 協議事項

(1) 会則改正について

○改正事項なし

(2) 役員改選について

○満場一致にて留任決定。

以上 (書記・海谷)

昭和57年度 決算報告

総務 菊 地 君 男
鶴 見 興 人

収入の部

項 目	予 算	決 算	備 考
繰越金	753,516	753,516	
会費	650,000	471,000	過年度分 30,000 本年度分 413,000 次年度分 28,000
寄付金	0	0	
雑収入	0	7,824	預金利息
合 計	1,403,516	1,232,340	

支出の部

項 目	予 算	決 算	備 考
事業費	600,000	260,700	社会人大会選手派遣費 会報19号印刷・製本代等
補助費	200,000	100,990	インカレ・送別会補助等
会議費	50,000	8,760	
通信・印刷費	200,000	157,120	会報19号送料・諸通知等
事務費	15,000	9,280	封筒・原稿用紙等
雑費	10,000	5,300	口座手数料
予備費	328,516	3,590	祝電等
繰越金	0	686,600	
合 計	1,403,516	1,232,340	

昭和57年度 会費納入状況

納入総額 471,000円 (決算報告参照)

領収証No.	月 日	氏 名	金 額	領収証No.	月 日	氏 名	金 額
1	57. 4. 1	伊 藤 鈴 夫	2,000	27	57. 12. 16	志 村 久 子	3,000
2	"	片 山 みちる	2,000	28	"	山 崎 雅 昭	3,000
3	"	櫛 野 智恵美	2,000	29	"	水 島 克 巳	2,000
4	"	高 橋 勲	2,000	30	"	田 野 哲	5,000
5	"	津 村 吉 輝	2,000	31	"	山 田 隆 士	4,000
6	"	早 瀬 幸 博	2,000	32	12. 17	網 島 路 正	4,000
7	"	藤 井 幸 信	2,000	33	"	伊 藤 昭 代	2,000
8	"	潘 鏡 雄	2,000	34	"	酒 井 清	3,000
9	"	峯 田 孝 幸	2,000	35	"	佐 藤 久 恵	3,000
10	"	宮 本 知加子	2,000	36	"	近 藤 明	4,000
11	"	宮 本 撰 子	2,000	37	"	船 木 政 明	5,000
12	"	渡 辺 英 明	2,000	38	"	大 野 登利光	8,000
13	5. 14	早 田 卓 次	10,000	39	12. 18	松 山 もと子	4,000
14	"	稲 橋 恒 行	10,000	40	"	松 本 恭 子	4,000
15	"	小 栗 郁 郎	10,000	41	"	猪 瀬 宗 子	3,000
16	"	石 井 征 也	10,000	42	"	久 保 英 雄	3,000
17	"	高 田 信 興	10,000	43	"	金 居 俊 郎	2,000
18	6. 24	今 井 久美子	2,000	44	12. 19	原 弘 吉	4,000
19	7. 2	池 田 智 美	5,000	45	"	慶田盛 定	2,000
20	"	鶴 見 興 人	5,000	46	"	山 本 富士子	2,000
21	7. 3	酒 井 博 行	8,000	47	"	高 橋 知 子	3,000
22	7. 7	岩 沢 稔	5,000	48	"	吉 村 博	4,000
23	7. 10	徳 永 富 夫	3,000	49	"	林 富久寿	3,000
24	10. 23	高 橋 博 美	2,000	50	"	山 崎 忠 男	4,000
25	11. 20	佐 藤 啓	6,000	51	"	菅 野 秀 俊	4,000
26	11. 27	木 村 多 喜	5,000	52	12. 20	岡 本 みどり	4,000

領收証No.	月 日	氏 名	金 額	領收証No.	月 日	氏 名	金 額
53	57. 12. 20	朝 倉 康 雄	4,000	83	57. 12. 27	塚 越 美和子	2,000
54	"	杉 沼 誠	2,000	84	"	伊 藤 勇	4,000
55	12. 23	高 橋 三千子	2,000	85	12. 28	佐々木 巖	4,000
56	"	藤 原 和 子	3,000	86	"	巻 島 久	2,000
57	"	中 谷 秀 明	4,000	87	"	鶴 鈴 子	2,000
58	"	吉 田 義 則	4,000	88	"	小 柴 守 夫	5,000
59	"	小 島 真 理	2,000	89	"	栗 原 良 孝	3,000
60	"	田 中 康 義	2,000	90	12. 29	安 藤 泰 行	4,000
61	"	茂 木 こずえ	2,000	91	"	平 野 文 世	5,000
62	"	庄 司 忠 男	3,000	92	12. 30	岩 井 高 志	2,000
63	12. 24	国 井 信 行	2,000	93	"	松 田 明	4,000
64	"	佐 藤 之 俊	3,000	94	"	岡 崎 恭 児	3,000
65	"	安 藤 久 美	3,000	95	"	増 子 俊 子	2,000
66	"	伊 谷 正 一	4,000	96	12. 31	柏 谷 錦 一	2,000
67	"	田 島 清 貴	6,000	97	"	三 田 久	5,000
68	"	松 岡 範 孝	4,000	98	"	正 木 恭 子	2,000
69	"	西 村 久美子	2,000	99	"	富 松 由三子	3,000
70	"	松 山 禎 一	3,000	100	"	櫛 谷 宗 敬	4,000
71	12. 25	久保田 一 行	3,000	101	58. 1. 2	米 田 賢 一	5,000
72	"	相 原 和 明	4,000	102	"	伊 東 恭 一	4,000
73	12. 26	大 和 孝 三	10,000	103	1. 6	近 藤 盛 一	8,000
74	"	五十嵐 久 人	3,000	104	1. 7	吉 田 清 一	2,000
75	"	鈴 木 光 雄	4,000	105	"	野 津 泰 秀	4,000
76	"	千 野 良 一	4,000	106	"	芳 尾 明	5,000
77	"	中 村 秀 也	2,000	107	"	柴 沼 篤 博	2,000
78	"	境 保 則	2,000	108	"	宇 野 正 信	4,000
79	12. 27	酒 田 隆	2,000	109	1. 8	田 中 章 二	3,000
80	"	赤 井 和 子	4,000	110	"	堀 田 敏 明	4,000
81	"	岡 本 祥 子	4,000	111	1. 10	中 村 秀 二	2,000
82	"	山 内 悟	5,000	112	"	藤 沢 秀 男	3,000

領収証No	月 日	氏 名	金 額	領収証No	月 日	氏 名	金 額
113	58. 1. 12	浅 田 泰 男	5,000	121	58. 2. 12	城 本 真理子	2,000
114	1. 17	伊 藤 勇	1,000	122	2. 21	吉 川 輝	5,000
115	1. 21	舟 山 忠 広	4,000	123	3. 7	梶 山 広 司	3,000
116	"	岡 島 耕 一	2,000	124	3. 8	早 田 卓 次	5,000
117	1. 23	佐 藤 勲	5,000	125	3. 12	波多野 伸	5,000
118	1. 25	徳 永 富 夫	4,000	126	3. 14	椎 名 厚	3,000
119	1. 30	森 田 博	3,000	127	"	朝 倉 徳 雄	4,000
120	2. 12	森 俊 子	2,000	128	3. 31	菊 地 君 男	5,000

昭和58年度 会費納入状況

昭和58年4月1日～11月16日現在 合計 684,000円

領収証No	月 日	氏 名	金 額	領収証No	月 日	氏 名	金 額
1	58. 4. 1	川久保 祐 司	2,000	17	58. 4. 19	前 田 千賀志	5,000
2	"	市 原 邦 彦	2,000	18	"	早 川 尚 夫	8,000
3	"	吉 盛 武 光	2,000	19	"	鈴 木 聖 子	4,000
4	"	及 川 剛	2,000	20	"	古 田 真由美	2,000
5	"	清 水 克 彦	2,000	21	"	印 宮 亨	4,000
6	"	湯 川 誠 子	2,000	22	"	山 本 好 隆	4,000
7	"	木 島 智 代	2,000	23	"	朝 倉 和 幸	2,000
8	"	杉 崎 嘉津江	2,000	24	"	望 月 敏 正	4,000
9	"	池 崎 万里子	2,000	25	"	松 永 二 郎	2,000
10	4. 14	藤 谷 弘 一	5,000	26	"	荒 井 千 文	4,000
11	4. 17	山 脇 恭 二	2,000	27	"	山 脇 育 子	2,000
12	4. 18	渡 辺 嘉 三	4,000	28	"	白 土 弘 士	3,000
13	"	松 田 洋	3,000	29	"	水 田 靖 夫	2,000
14	4. 19	谷田部 光 則	3,000	30	4. 20	武 田 貞 二	2,000
15	"	森 山 理	4,000	31	"	保 坂 弘 一	5,000
16	"	葛 井 克 政	4,000	32	"	後 藤 郁 代	2,000

領収証No	月 日	氏 名	金 額	領収証No	月 日	氏 名	金 額
33	58. 4. 20	中 島 清	3,000	63	58. 5. 6	山 本 光 子	10,000
34	"	佐 野 静 雄	3,000	64	"	山 口 次 男	4,000
35	"	小 沢 富 代	8,000	65	"	奥 田 早 苗	4,000
36	"	内 田 民 雄	3,000	66	"	仲 西 盛 光	5,000
37	"	石 井 悦 夫	4,000	67	5. 9	里 中 昌 子	8,000
38	"	遠 藤 孝 之	2,000	68	"	坪 井 し の ぶ	2,000
39	"	寺 元 良 人	3,000	69	5. 11	河 原 正 昭	10,000
40	4. 21	大 津 卓 也	3,000	70	"	戸 沢 滋	3,000
41	"	過 足 重 六	4,000	71	5. 12	桑 本 京 子	2,000
42	"	村 上 吉 正	3,000	72	"	鹿 野 久	2,000
43	"	常 井 晴 道	4,000	73	5. 13	本 池 浩 次	2,000
44	4. 22	宇 津 豊	4,000	74	5. 15	平 川 文 雄	15,000
45	"	潘 鏡 雄	2,000	75	"	堀 田 淳 二	10,000
46	4. 23	今 西 悦 子	4,000	76	"	早 瀬 幸 博	2,000
47	"	工 藤 昌 二	4,000	77	5. 18	真 島 孝 禮	5,000
48	4. 25	片 山 雅 道	2,000	78	5. 27	高 波 司 雄	4,000
49	"	椎 名 昇	4,000	79	6. 2	山 崎 智 彦	5,000
50	"	藤 田 幸 男	5,000	80	"	飯 島 好 美	4,000
51	"	住 廣 晃	3,000	81	6. 3	松 下 悦 子	2,000
52	"	榎 山 芳 雄	4,000	82	6. 22	梶 信 昭	4,000
53	"	石 毛 誠	4,000	83	6. 28	鶴 見 興 人	5,000
54	4. 26	小 松 武 雄	10,000	84	6. 30	青 木 文 次	3,000
55	4. 27	辻 誌 朗	4,000	85	7. 4	高 橋 和 秀	2,000
56	"	針 替 信 之	2,000	86	7. 23	岡 本 公 子	5,000
57	"	斉 藤 敬 一	4,000	87	7. 27	安 藤 久 実	3,000
58	"	峯 田 孝 幸	2,000	88	"	谷 田 部 光 則	3,000
59	4. 28	中 馬 盛 夫	3,000	89	7. 28	小 坂 井 一 弘	2,000
60	4. 30	石 丸 洋	4,000	90	"	伊 藤 昭 代	2,000
61	4. 30	高 見 等	2,000	91	"	吉 田 清 一	2,000
62	5. 2	渡 辺 英 明	2,000	92	7. 29	山 田 隆 士	4,000

領收証No	月 日	氏 名	金 額	領收証No	月 日	氏 名	金 額
93	58. 7. 30	船 木 政 明	5,000	123	58. 8. 6	佐 藤 久 恵	3,000
94	"	島 崎 康 行	4,000	124	"	岡 本 みどり	4,000
95	"	松 本 竣 一	3,000	125	8. 8	鶴 鈴 子	2,000
96	"	松 田 明	4,000	126	"	小 柴 守 夫	5,000
97	"	佐 藤 啓	3,000	127	"	海 谷 美代子	5,000
98	7. 31	酒 田 隆	2,000	128	8. 10	伊 藤 勇	5,000
99	"	中 村 秀 二	2,000	129	"	田 野 哲	5,000
100	"	山 本 富士子	2,000	130	"	水 島 克 已	2,000
101	"	佐 藤 誠	10,000	131	"	吉 村 博	4,000
102	"	金 子 正 史	10,000	132	8. 11	山 内 悟	5,000
103	8. 1	春 山 文 子	5,000	133	8. 12	近 藤 明	4,000
104	"	菅 原 明 雄	3,000	134	8. 13	岡 本 祥 子	4,000
105	8. 3	過 足 重 六	4,000	135	8. 15	城 本 真理子	2,000
106	"	高 橋 知 子	3,000	136	"	松 田 洋	3,000
107	"	西 原 由美子	4,000	137	8. 21	外 山 宜 男	10,000
108	"	小 俣 里知子	5,000	138	"	岩 沢 稔	5,000
109	8. 4	青 木 文 次	4,000	139	"	赤 松 正 致	9,000
110	"	後 藤 史 朗	3,000	140	"	相 原 和 明	4,000
111	"	塚 越 充和子	3,000	141	"	山 本 好 隆	4,000
112	"	境 保 則	3,000	142	8. 22	市 毛 美喜雄	3,000
113	"	板 谷 盛 靖	2,000	143	"	栗 原 良 孝	3,000
114	"	白 土 弘 士	3,000	144	"	渡 辺 美弥子	3,000
115	"	上 野 剛	10,000	145	"	吉 川 輝	5,000
116	"	荒 井 千 文	4,000	146	"	早乙女 貞 夫	10,000
117	8. 5	森 山 理	4,000	147	8. 23	広 川 潔	4,000
118	"	柏 谷 錦 一	2,000	148	"	田 島 清 貴	3,000
119	"	志 村 久 子	3,000	149	"	門 脇 隆	4,000
120	"	西 村 久美子	3,000	150	"	宮 本 摂 子	2,000
121	8. 6	中 谷 秀 明	4,000	151	8. 24	平 田 芳 和	3,000
122	"	高 崎 高 典	3,000	152	8. 26	阿 部 稔	4,000

領収証No	月 日	氏 名	金 額	領収証No	月 日	氏 名	金 額
153	58. 8. 31	岡 崎 恭 児	3,000	166	58. 10. 2	松 山 禎 一	3,000
154	"	茂 木 こずえ	2,000	167	"	松 山 もと子	4,000
155	9. 2	山 崎 忠 男	4,000	168	10. 6	保 坂 弘 一	5,000
156	9. 4	海 谷 美代子	5,000	169	10. 7	桃 井 明 男	4,000
157	"	菅 野 秀 俊	4,000	170	"	平 田 芳 和	3,000
158	9. 5	林 富久寿	3,000	171	10. 9	増 子 俊 子	2,000
159	9. 8	高 見 等	2,000	172	10. 16	慶田盛 定	2,000
160	9. 11	浅 田 泰 男	5,000	173	10. 20	藤 谷 弘 一	5,000
161	9. 16	岡 島 耕 一	2,000	174	10. 27	垂 石 守	2,000
162	9. 19	松 本 恭 子	4,000	175	11. 4	村 上 吉 正	4,000
163	9. 21	芳 尾 明	5,000	176	11. 7	高 橋 三千子	3,000
164	9. 28	金 子 洋 平	10,000	177	11. 16	葛 井 克 政	4,000
165	9. 30	櫛 谷 宗 敬	4,000				

会費納入について

昭和58年度 会費未納の方は早急に納入して下さい。

第 1 回卒	～	第 9 回卒	5,000円
第 10 回卒	～	第 14 回卒	4,000円
第 15 回卒	～	第 19 回卒	3,000円
第 20 回卒	～	第 24 回卒	2,000円

昭和58年度 男子競技会報告

男子コーチ 梶山 広司 (第17回卒)

58年11月12日、全日本選手権大会の団体戦が終了した時点で、今年度学生が団体として参加する競技会はすべて終了したことになります。ここで、春からの1シーズンをふり返って、本学男子の各競技会における結果を報告したいと考えます。

まず今年度特筆すべきことは、キャプテンの小野田(4年、洛南高出)と副キャプテンの渡辺(4年、保善高出)の両名が、7月に行われた世界選手権代表決定競技会で日本代表の座を勝ちとり、ブダペストでの大会に参加したことです。同大会でチャンピオンとなったのが16才のソ連選手であることを考えますと、彼ら2人の台頭は、われわれだけでなく日本の体操界にとっても喜ばしいことであろうと思います。

さて、団体戦の方は、まず6月に東日本インカレが行われました。本学は、小野田、渡辺、千代(3年、洛南高出)、安里(3年、興南高出)、田中(3年、土浦日大高出)、島田(2年、高崎工高出)がチームとして出場し、あん馬から入り跳馬までは日体大との差0.35と接戦を演じましたが、4種目めの平行棒で3名にミスが出てから崩れ、結局、1位日体大と5.05、2位筑波大と1.00の差で3位に終わってしまいました。

8月のインカレも東日本インカレと同じメンバーで出場しました。規定の跳馬から順調に得点を重ねいいムードで展開していたのですが、欠点種目として気にかかっていた5種目めのあん馬で3名にミスが出てしまい、規定で大きく出遅れる結果になってしまいました。自由のみでは、規定2位の筑波大に勝っているのですが、規定の出遅れがひびいて結局は1位日体大に5.35、2位筑波

大に2.30の差をつけられて3位に終わりました。

11月の関東新人戦では、矢島(1年、高崎工高出)、石川(1年、洛南高出)、林(1年、銚子商高出)、名護(1年、興南高出)、藤倉(1年、高知高出)、殿垣(1年、飾磨高出)がチームとして出場、持てる実力を十分に発揮して2位になりました。1位日体大との差は7.10ありましたが、大学での練習を半年間程度しかしていない1年生ばかりのチームとしては、満足できる成績であると思います。これからの練習次第では、インカレなどで活躍できる日もそう遠くないと思われれます。

同じく11月に行われた全日本では、インカレメンバーの田中を足首故障のため個人出場にまわし川畑(3年、神港高出)をチームに入れて出場、結果は6位でした。小野田、渡辺が世界選手権から帰国して2、3日しかなく、チームとしての練習が十分できなかったことを考えますと、まずは順当であったと言えるのではないのでしょうか。

今シーズンをふり返ってみますと、4年生2名がチームの要となり、それなりの成績を収めることができたと思います。しかし、彼らは3年生当時からエース格として活躍していたことを考えますと、3年生、2年生の頑張りがもうひとつという印象が残ります。彼らが抜ける来シーズンは当然苦しくなります。現3年生、2年生の奮起、そして1年生の伸びを期待しなければなりません。私自身、部員と一緒に頑張って頑張りますので、ご声援、ご指導のほどをよろしく願いたします。

昭和58年度 体操部々員名簿

4年

(男子主将)

小野田博之 : 洛南高

(男子コーチ)

檜 一幸 : 洛南高

遠藤 幸一 : 土浦日大高

加藤 安則 : 土浦日大高

桑原 透 : 日大東北高

佐々木藤雄 : 秋田工高

堀 正道 : 清風高

渡辺 光昭 : 保善高

(女子主将)

田中 千春 : 武生高

(女子総務)

猪野木明美 : 二階堂高

佐藤久美子 : 暁高

田嶋しのぶ : 国学院高

長沢 和子 : 日大三島高

3年

(男子総務)

大塚 宏 : 日大高

千代 恭司 : 洛南高

安里 順一 : 興南高

川畑 龍雄 : 神港高

桜井 一男 : 真岡高

田中 健一 : 土浦日大高

安達 浩行 : 日大山形高

糸稻 神久 : 相工大付高

斉藤 昭仁 : 東海大第四高

岡崎 格子 : 国学院高

岩崎 朗子 : 久喜高

大畑 洋子 : 富山女子高

斉藤 有理 : 前橋市立女子

山中百合子 : 倭成学園女子

(学連)

藤田 昌代 : 西遠女子学園

2年

菊池 信幸 : 土浦日大高

大野 裕二 : 中央高

島田 利夫 : 高崎工高

天童 毅 : 日大豊山高

八木 宏克 : 中京高

矢吹 辰巳 : 保善高

吉川 秀之 : 日大豊山高

池田 修 : 日大山形高

伊藤 奈美 : 酒田中央高

伊藤 直美 : 城北女子高

1年

石川 幸一 : 洛南高

星沢 秀一 : 中央高

藤倉 繁 : 高知高

増野 敏明 : 京北高

殿垣 哲也 : 飾磨高

名護 晃 : 興南高

林 宏行 : 銚子商高

矢島 利康 : 高崎工高

吉沢 誠 : 長野中央高

河島 勝行 : 弘前実高

阿部 幸子 : 和洋女子高

加藤美佐江 : 城北女子高

斉藤かおり : 高崎女子高

斉藤 繁美 : 鯖江高

佐藤 晶子 : 習志野高

下島 敦子 : 倭成学園女子

内藤 里香 : 成美学園女子

竹江真由美 : 鉾田第二高

競 技 会 成 績

年月日 (場所)	大会名		順位	男子	順位	女子
S.57. 10. 29 ~ 31 前橋市民体育館	第36回 全日本選手権大会	<ul style="list-style-type: none"> • 団体総合 • 個人総合 • 種目別 	5位 6位 12位 7位 7位 2位 6位 4位 3位 5位	小野田博之 渡辺 光昭 小野田博之 渡辺 光昭 市原 邦彦 島田 利夫 渡辺 光昭 渡辺 光昭 小野田博之	8位	
S.58. 6. 10 ~ 12 いわき市 総合体育館	第17回 東日本学生選手権 大会	<ul style="list-style-type: none"> • 団体総合 • 個人総合 • 種目別 	3位 2位 3位 3位 6位 6位 6位 2位 1位 5位	渡辺 光昭 小野田博之 田中 健一 小野田博之 渡辺 光昭 小野田博之 渡辺 光昭 渡辺 光昭 安里 順一	4位	
S.58. 8. 16 ~ 21 早稲田大学 記念体育館	第37回 全日本学生選手権 大会	<ul style="list-style-type: none"> • 団体総合 • 個人総合 • 種目別 	3位 2位 5位 4位 5位 6位 5位 3位	渡辺 光昭 小野田博之 小野田博之 千代 恭司 渡辺 光昭 渡辺 光昭 渡辺 光昭	4位	

年月日(場所)	大会名		順位	男子	順位	女子
		跳馬 鉄棒	4位 6位 1位 4位	小野田博之 渡辺 光昭 渡辺 光昭 小野田博之		
S.58. 11. 3 駒沢体育館	関東学生 新人選手権大会	• 団体総合 • 個人総合 • 種目別 ゆか あん馬 つり輪 平行棒 鉄棒 跳馬 段違い平行棒 平均台	2位 5位 5位 1位 4位 5位 3位 3位 6位 6位	矢島 利康 石川 幸一 矢島 利康 名護 晃 林 宏行 矢島 利康 石川 幸一 矢島 利康 林 宏行	4位 4位 3位 3位 6位 4位	竹江真由美 竹江真由美 竹江真由美 斉藤 繁美 竹江真由美
S.58. 11. 10 ~ 13 奈良県立 橿原公苑体育館	第37回 全日本選手権 大会 (ロサンゼルスオ リンピック第1 次予選会)	• 団体総合 • 個人総合 • 種目別 ゆか 跳馬 平行棒 鉄棒	6位 4位 11位 5位 4位 1位 3位	渡辺 光昭 小野田博之 渡辺 光昭 渡辺 光昭 渡辺 光昭 渡辺 光昭	4位	

年月日 (場所)	大会名		順位	男子	順位	女子
S.58. 3 (ニューヨーク)	アメリカンカップ		3位	小野田博之		
S.58. 5. 3 (駒沢)	ユニバシアド 代表選考会		3位	小野田博之		
S.58. 5. 27 ~ 28 (東京)	世界選手権第二次 選考会		9位	渡辺 光昭		
S.58. 5. 27 ~ 28 (東京)	世界選手権第二次 選考会		6位	渡辺 光昭		
S.58. 5. 27 ~ 28 (東京)	世界選手権第二次 選考会		8位	小野田博之		
S.58. 7. 2 ~ 4 (カナダ・エドモン トン)	ユニバ・シアド		8位	小野田博之		
S.58. 8. 27 ~ 28 (アメリカ・ロサン ゼルス)	プレオリンピック	ゆか	4位	渡辺 光昭		
S.58. 8. 27 ~ 28 (アメリカ・ロサン ゼルス)	プレオリンピック	平行棒	2位	渡辺 光昭		
S.58. 8. 27 ~ 28 (アメリカ・ロサン ゼルス)	プレオリンピック	鉄棒	3位	渡辺 光昭		
S.58. 8. 27 ~ 28 (アメリカ・ロサン ゼルス)	プレオリンピック	鉄棒	1位	渡辺 光昭		
S.58. 7. 23 ~ 24 (岡山)	世界選手権最終選 考会		6位	渡辺 光昭		
S.58. 7. 23 ~ 24 (岡山)	世界選手権最終選 考会		7位	小野田博之		
S.58. 10. 23 ~ 30 (ハンガリー・ブダペ スト)	第22回世界選手権 大会	鉄棒	7位	渡辺 光昭		
S.58. 11. 10 ~ 13 (奈良)	ロサンゼルス・オリ ピック 第1次選考会	通過者		梶山 広司		
S.58. 11. 10 ~ 13 (奈良)	ロサンゼルス・オリ ピック 第1次選考会	通過者		渡辺 光昭		
S.58. 11. 10 ~ 13 (奈良)	ロサンゼルス・オリ ピック 第1次選考会	通過者		小野田博之		

会 員 名 簿 訂 正

1983年版会員名簿を次の通り訂正して下さい。

第2回

芳 尾 明

(勤・電) 045-383-2893

第3回

金 子 正 史

(勤・電) 045-201-7460

川 村 竹 子

(住) 削除

春 山 文 子

(勤・電) 0425-85-0311

藤 谷 弘 一

(住) 平岸1条9丁目6-10

第4回

佐 藤 誠

(勤) 秋田短期大学

第5回

磯 部 忠 通

(勤) 磯部建工

第6回

浅 田 泰 男

(住) 旭区左近山157-2

左近山3-24-406

川 口 幸 彦

(住) 503 苫小牧市大成町1-11-1-201

第7回

砂 野 泰 男

(勤) 県立田辺商業高校

中 原 剛

(住) 803北九州市小倉北区豎林町9-2

山元ハイッ

第8回

大 内 清

(勤) 都立本所高校

(住) 345埼玉県南埼玉郡宮代町西原342-22

(電) 04803-3-4525

第9回

伊 藤 寛 美

(勤・電) 0272-34-5555

今 村 悟

(住) Im Hasenkamp 29

5882 Meinerzhagen

W. GERMANY

井 上 靖

(住) 飾磨区恵美酒364-1

第4恵美酒マンション605号

湊 満 雄

(勤) 土庄町立土庄中学校

(電) 0879-62-0054

(自・電) 0879-62-2441

第10回

近 藤 明

(勤) 京北学園

(電) 03-941-6290

箱根 修

(勤・電) 03-391-5739

(住) 練馬区富士見台1-15-6

桃井 明男

(住) 371前橋市青柳町524-4

工藤 昌二

(勤) セントラル・スポーツクラブ株

(電) 03-572-2806

第11回

舟山 忠広

(住) 090北海道北見市春光町5-8-36

松田 明

(勤・電) 0242-22-1004

(自・電) 0242-27-2037

第12回

小沢 富代

(勤) 削除

(自・電) 011-512-9335

鈴木 光雄

(勤) 朝日スポーツクラブ連盟

前野 冷子

(住) 削除

第13回

岡本 みどり

(住) 177東京都練馬区下石神井2-9-6

斉藤 敬一

(勤) 相模原市立大沢中学校

(電) 0427-61-2612

椎名 昇

(自・電) 0988-79-4551

高橋 久美子

(勤) 横浜市立山内中学校

西原 由美子

(勤) 京都府立医大付属看護学校

(電) 075-251-5871

第14回

戸沢 滋

(勤) 雄和町立種平小学校

(電) 0188-86-2594

(自・電) 0188-39-1673

村上 吉正

(勤) 県立中山の園

山崎 雅昭

(住) 333川口市芝新町9-9

蕨サンハイツ403号

(電) 変更なし

第15回

遠田 幸子

(姓) 中村

(住) 300-42 茨城県筑波郡筑波町大形1382

後藤 史朗

(勤) 池沢小学校

椎原 英世

(住) 削除

山崎 信恵

(住) 333川口市芝新町9-9

蕨サンハイツ403号

(電) 変更なし

第16回

白土 弘士

(勤) 三和町立三和中学校

(電) 02807-6-0133

錦井 利臣

(勤) 熊本大学教育学部

(電) 0963-44-2111 内2571

野原 秀安

(住) 削除

矢野 竜治

(勤) セントラル・スポーツクラブ株

(住) 270-01 流山市鱧ヶ崎字高田978

高谷荘2号

(電) 0471-59-0347

第17回

岡崎 恭児

(自・電) 08662-2-5055

栗原 良孝

(勤・電) 0486-84-3675

松山 禎一

(住) 861-41 熊本市御幸笛田町1658-29

(電) 0963-79-2118

第18回

石井 弘子

(勤) 横浜市立城郷中学校

(電) 045-471-9203

(出身校) 県立川和高

内田 民雄

(出身校) 日大豊山高

小貫 孝春

(住) ライオンズマンション中山第3A-406号

佐藤 之俊

(勤) 山形城北女子高校

富松 由三子

(勤) スタジオ・ダンシン

(電) 06-313-2662

平田 芳和

(勤) 神戸市立下山手小学校

(電) 078-341-5310

(住) 654神戸市須磨区白川台6-4-6

白川台サンハイツ103号

(電) 078-791-3703

第19回

板谷 盛靖

(住) 伊野町枝川224-2

高橋 三千子

(住) 本間荘1-B号室

塚越 充和子

(自・電) 0486-24-9055

中村 秀二

(勤) 幼少児体育振興会

(電) 06-648-0777

第20回

桑本 京子

(勤) カワイ体育教室

後閑 文昌

(住) 筑縄町688

垂石 守

(勤) 石川特殊電線株

(住) 990-03 山形県東村山郡山辺町山辺335

(電) 02366-4-6038

正木 恭子

(住) 621京都府亀岡市下矢田町一ノ坪3-78

(電) 07712-4-4530

増子 俊子

(勤・電) 0249-39-5319

(自・電) 0249-38-7729

茂木 こずえ

(住) 〒379-21

第21回

城本 真理子

(住) 910福井市幾久町2-27

県住幾久団地1-202号

浜野 純子

(姓) 大久保

(住) 183府中市白糸台5-31-1

水島 克己

(勤) 京都ジャンピング倶

(住) 601-13 京都府伏見区石田西ノ坪1

醍醐石田団地10-710

第22回

渡辺 幸子

(勤) 削除

(住) 991-31山形県上市市石崎1-3-31

第24回

川久保 祐司

(勤) 大塚製薬株東京営業所

(電) 03-292-0011

大島 智代

(勤) マドモアゼル・ノンノン

湯川 誠子

(姓) 田中

(勤) 和歌山県体力開発センター

(電) 0734-31-7173

編 集 後 記

年内発刊を目標に大忙がしの編集であった。今回はたくさんの方から寄稿して頂いたので内容的にはかなりのものになったと自負している。

師走には少し早い11月26日-27日、恒例の忘年会が箱根湯本で行われた。今回は20回目ということで、参加者も今までで最高の33名を数え、晩秋の箱根に楽しい一夜を過ごした。

その席上、12月初旬ロンドンで開催されるコココーラ・カップの選手団長に稲橋会長、コーチに前山君(第17回卒・大和銀行)、男子選手2名に山脇君(第21回卒・大和銀行)、早瀬君(第23回

卒・河合楽器)が決定した旨ご披露があった。選手はこの他に女子高生が2名派遣されるそうであるが、まるで桜樹会遠征隊のようなメンバーに参会者は沸いた。

12月5日に出発とのことであるが、稲橋会長の恭子夫人(第1回卒・美容院経営)は11月20日に3ヶ月の美容術修業を終えてロンドンから帰国したばかり。忙がしいご夫婦ではある。

全員元気に、大きな成果をみやげに帰国されることを祈る。

58.11.29 菊地